

Bグループ：重症心身障害児（者）の課題について

○グループメンバー8名+オブザーバー1名、永福学園（島田先生）

◎特に医療的ケアがある児童（者）に関する課題について検討をしている。今年度は見学等を取り入れながら、議論を深めている。永福学園の先生にもご協力をいただき、永福学園の児童の状況・学校での対応等も情報提供していただきながら、議論をすすめている。

- ・6月15日 第1回目 ミーティング
- ・6月28日 中野区子ども発達センターたんぼぼ（児童発達支援・放課後等デイサービス）見学
- ・7月27日 第2回目 ミーティング。見学の振り返り。
- ・8月29日、31日、10月18日 おでんくらぶ見学。
- ・11月9日 第3回ミーティング。（おでんくらぶ見学振り返り・事例検討）

→1月25日 今年度のまとめ

◎中野区子ども発達センターたんぼぼ、おでんくらぶ（中野区） 見学から

- ・看護師常勤や福祉職の吸引対応等医療的な対応・バックアップを整えている。送迎ワゴンにもNsが同乗。
- ・中野区医師会のバックアップ、各対象児主治医との連携等、本人・支援者が安心して過ごせる環境・工夫がされている。
- ・医療的ケアのある重症児が利用していることから、当日欠席等も多く、経営的には赤字。おでんくらぶでは、他事業（訪問介護）や補助金等でやり繰りをしている。自治体からのバックアップ等がないと単独では事業として難しいか。
- ・専門職（Ns・OT・PT・ST）を配置し、プログラムの充実や支援の向上をはかると人件費がかかり、経営を圧迫する等、難しい現状あり。
- ・医療的ケア対応の学童クラブがなく、また区内に医療的ケア対応の放課後等デイサービスもないため、他区の放課後等デイサービスに頼らざるを得ない状況になっている。

→平成30年3月に医療的ケア対応の放課後等デイサービスが清水に開所予定。

- ・放課後等デイサービスの送迎では看護師を配置することにより、医療的ケアのある（吸引等）児童でも送迎ワゴンの利用が可能になっている。しかし、永福学園への通所バスには、保護者の添乗・バス内での吸引等が実施出来ず、保護者が送迎している現状があり、その後進展がない。教育の保障・通学の保障に関わる問題であるため、差別解消支援地域会議や東京都の差別解消関連の会議にも上げていくことが、本会で確認されている。その後の報告・経過を確認していきたい。
- ・これまでの大島分類の考え方では対応できない対象者が医療の進歩にも伴い、出てきている。医療を軸に入れ立体的3次元で児を捉える考え方も出てきている。

◎事例検討（動ける医療的ケア児の短期入所）を通じて

- ・短期入所には福祉型と医療型があり、杉並区内には福祉型しかない。衛生病院の短期入所があるが、動ける（歩ける）児は利用が難しい。
- ・福祉型だと医療的なバックアップ体制が取れず、受け入れ側としては慎重に成らざるを得ない。医療型だと、医療的な部分是对応できるが本児1人に職員が付くことは難しく、動きを制限してしまうことに繋がり受け入れが難しい。福祉型と医療型の狭間にいる動ける医療的ケア児の短期入所先が見つからない。
- ・区内の短期入所先が限られており、身体ではマイルドハート高円寺と一部光ホーム、クローバーが対応しているのみで、絶対的に不足している。短期入所の事業所同士が集まり情報交換をする場を持ちたい。
- ・秋津療育園での受け入れの様子（動ける医ケア児）等、見学する機会があれば今後地域で受け入れる参考になるか。